

- ◆ 近畿財務局では、各種ヒアリング等を通じて把握した地域の課題・ニーズ等に対し、当局が有するネットワークを活用した課題解決型のイベントを企画・実施しているところ。
- ◆ このような中、地元商工会議所及び金融機関から、「文化財と古民家再生を基軸にした観光振興のほか、観光産業を興し地域の雇用を創出する起業家の育成が今後の課題」との声があったことから、彦根商工会議所・滋賀銀行・財務局の共催で「滋賀県(北部エリア)の文化財・古民家再生を活用したインバウンド推進のための講演会・勉強会」を開催(平成28年12月9日)。

1. 成果事例の概要等

【課題の把握】

- 滋賀県内では観光誘致のノウハウがないことを課題とする地方公共団体が多かったことから、昨年度、当局主催で観光振興に係るセミナー(講演会・意見交換会)を開催(27.12.22@近江八幡市)
- 今回、上記セミナー後の観光振興の取組状況について、商工会議所や金融機関にフォローアップヒアリングを実施したところ、依然として地方公共団体同士の連携が弱く、文化財と古民家再生を基軸にした観光振興の他、観光産業の起業家育成が課題との声を把握。

→ こうした地域からの課題・要望に対し支援ができないか検討



彦根商工会議所、滋賀銀行との共催で「滋賀県(北部エリア)の文化財・古民家再生を活用したインバウンド推進のための講演会・勉強会」を開催

【ポイント】

- ◆ 昨年開催した観光振興に係るセミナーのアフターフォローを踏まえ、「文化財及び古民家の活用」にテーマを絞ったセミナーを企画するとともに、**地域から要望のあった知見・ノウハウを持つ講師を招聘**
- ◆ 観光産業の起業家育成を目的に、**地域において観光振興のメインプレーヤーになり得る企業家を集めた市民公開型のワークショップを開催**
- ◆ 滋賀県北部エリアにおける広域での取組を促すため、**商工会議所、及び金融機関と共催でセミナーを開催**



◆大沼 芳幸氏(滋賀県文化財保護協会普及専門員)

滋賀県教育委員会文化財専門職員を経て、県立安土城考古博物館副館長、2015年から(公)滋賀県文化財保護協会普及専門員として活動。民俗考古学を中心とした琵琶湖文化史等に関する研究・普及活動を行っている。

◆藤原 岳史氏(一般社団法人NOTE代表理事)

兵庫県内を中心として古民家再生に取り組む一般社団法人ノオトの立ち上げから関わり、国家戦略特区の認定事業として、複数の古民家のフロントを一元管理する「篠山城下町(ささやまじょうかまち)ホテルNIPPONIA(ニッポニア)」を開業させるなど、古民家を活用した地方創生・地域活性化に取り組んでいる。



2. これまでの取組の成果等

【第1部】講演会

①『滋賀県の文化財を活用したツーリズム』

講師:大沼 芳幸氏

近江の持つ歴史的資源の素晴らしさ、近江の魅力をいかに旅行者に体験してもらうかについて講演

②『外国人の滞在施設としての古民家活用について』

講師:藤原 岳史氏

体験型の滞在施設として古民家をどう活用していくのかについて講演



【第2部】ワークショップ

地域の若手を中心とした企業家等(古民家再生を事業として考えている者、古民家の所有者、観光事業者、旅行代理店等)が講師を交え、「滋賀県の文化財・古民家を活用したまちづくり」をテーマに、ワークショップを実施 ※講演会参加者も聴講できるよう市民公開型で実施。



【第3部】交流会

1部・2部参加者による交流会(異業種交流として開催)

【出席者の主な声】

- セミナーを契機に講師(藤原氏)と面識ができ、篠山城下町ホテルを現地視察したり、反対に講師が当町を視察し、まちづくりの助言を受ける等、**新たな関係を構築**できた。
- 講師(大沼氏)の講演にあった、琵琶湖の水とともにある暮らしや自然と融合する神社等のストーリーが、外国人がツアーで望むことと知り、**今後のツアー運営の参考**になった。
- 大津市の町家で新たに宿泊施設を展開するにあたり、同じワークショップグループの宿泊業者から、英語版のガイドの提供や、寝具業者の紹介を受けるなど、**参加者同士の連携関係を深める**ことができた。

3. 今後の課題と大津財務事務所の対応

- 参加者に対しその後の取組状況等についてフォローアップすることにより、継続して課題解決の一助となる企画を提案し、地域の支援に努める。